

## 高校野球の持つ価値と問題性に関する一考察

横井康博\*, 守能信次\*\*

### A Study of the Values and Problems Inherent in High School Baseball

Yasuhiro YOKOI and Shinji MORINO

#### Abstract

The main purpose of this study was to clarify by a team questionnaire the opinions of baseball players with regard to the values and problems of high school baseball.

The results of this study were as follows :

The total number of middle-ranked teams being greater than other teams, the replies were very numerous from these teams. On the whole, the middle-ranked teams most often sought improvements in high school baseball. Conversely, high ranking teams tended to protect their competitive situation. Low ranking teams did not give any opinions except for "surplus reaction concerning high school baseball" because they don't reach at team ability which makes aware of problem and value of high school baseball.

#### 1. 研究の目的

少年野球人口の減少傾向やスポーツ人気の種目別分散化の現象が見られる中、なお高校野球は幅広い人気に支えられている。高校野球の指導者の多くは教員であるが、学校の事務職員、現役の大学生、学校関係者以外の人など様々な指導者が存在する。高校野球指導者の大多数を占める教員にしても、環境や立場の違いによって、高校野球との関わり方に大きな違いが生まれてくる。このように、様々な社会的立場にある指導者は、様々な高校野球の捉え方をすると推察され、そして高校野球に対して価値を見い

出すこともあれば、問題性を指摘することもあると考えられる。

本研究では、従来マスメディアや第三者的立場にある人々によって批評されてきた高校野球について、直接指導している指導者に対して意見を求める。今回は主として、高校野球指導者による高校野球の考え方、すなわち高校野球の価値と問題性の認識の違いをチーム成績別に検討することを目的とする。

#### 2. 研究の方法

まず本調査に先立って、現役の高校野球指導

---

\*大学院生, \*\*教授

者（監督・部長）を対象に予備調査を目的として面接調査を行なった。これを基にアンケート用紙を作成し、愛知、岐阜、三重の東海三県において野球部のある314校を対象に、その野球部指導者に送付して調査を行った。調査実施期間は、平成5年9月27日から同年10月16日までの3週間で、有効回収数は237（有効回収率75%）であった。

今回の報告では、上記アンケートの中で高校野球の価値と問題点に関して自由に記入してもらった回答を内容別に分類した上、表1のように項目別に整理し、それらがどのような競技成績のチームからの意見であるかがわかるように、一件ごとに一つの○で印を付けた。この場合、県大会ベスト8位以上の高校群を上位グループ、県大会初戦敗退の高校群を下位グループ、その他の高校を中位グループとした。したがって、表2には意見の件数が競技成績別に表されているが、あくまでも自由記入の意見であるため、敢えて意思表示をしない指導者の方が多数を占める結果となり、この件数を統計的な厳格さの中で解釈することはできない。以下、そのような解釈上の限界を踏まえた上で、なお項目別に幾つの特徴を概観することにした。

### 3. 結果および考察

自由回答の内容を分析した結果、表1, 2に示したように『高校野球の問題』と『高校野球の価値』の、大きく二つに分けることができた。さらに高校野球の問題については、『高校野球に見られる問題点』と、そうした問題点を踏まえた上での『高校野球への提言』の二つに分けることができた。このうち問題点については、特別視される高校野球の処遇に見られる不合理さとしてまとめられる『高校野球をめぐる過剰反応』、高校の部活動として行き過ぎた周囲の反応と指導者の対応に関する『周囲の過熱と指導方針』、規則や経費に関する問題の打開策を指摘する『ソフトとハードの環境』の三点に整理した。また提言については、高校野球指導者の指導技

術の発達や指導者の負担について述べたものを『指導者と組織』とし、また高校野球指導者の指導形態についての意見を『指導法上の提言』としてまとめた。

高校野球の価値について指摘する意見は、『高校野球指導者の指導理念』を述べたものばかりで、具体的には、野球を通しての人間形成や勝つことによる教育的価値を云々する『教育的価値の強調』という内容のものであった。

#### 1) 高校野球の問題

##### a. 問題点

##### ① 高校野球をめぐる過剰反応

一人の不祥事のために学校全体で連帯責任を負わされる『厳しすぎる出場停止処分』に関して総体的に多くの意見が出されたが、下位チームの指導者からはあまり意見が出されなかった。それによると、個人が起こした不祥事をチーム全体が責任を負うことの厳しさや、表面化する不祥事が氷山の一角にしか過ぎないことへの高野連の認識の甘さがあるとされる。おそらく甲子園出場をかけたチームどおしの水面下での争いがあり、上・中位チームの指導者はこの問題について敏感になっているものと思われる。

高校野球については他のスポーツと比べものにならないほどの過熱した報道がなされるが、このことに関しては中位チームから多くの意見が出され、上位チームに意見が多いであろうという予則とは異なる結果になった。それによると、マスコミが過剰な報道をすることによってますます勝利追求熱が高まることを問題視したり、上位チームについての偏った記事が多いとされる。総じて選手への悪影響を云々というより、各チームについての、公平な扱いの報道を求めながら、そのチームの勝利追求に走りがちな姿勢を批判した内容のものが多くなっている。

学校の部活動としての高校野球を特別扱いしすぎる傾向に関しては、上位チームからの意見が多く見られた。ここは、高校の部活動としての位置づけや、高校野球特有の規則が持つ問題

表1 高校野球の持つ問題と価値の項目別一覧表(自由回答)

《高校野球の問題》	問題点	高校野球をめぐる過剰反応	13	厳しすぎる出場停止処分	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人の不祥事のために学校全体で連帯責任を負わされる</li> <li>他のスポーツと比べものにならないほどの過熱な報道</li> <li>学校の部活動としての扱いを越える特別視</li> </ul>
			11	マスコミの過剰報道	
			6	野球の特別扱い	
		周囲の過熱と指導方針	8	行き過ぎた選手集め	<ul style="list-style-type: none"> <li>チームの勝利のため、手段を選ばず選手をスカウトする</li> <li>甲子園出場や進学・就職の保証や、チーム経営への介入</li> <li>他の側面には配慮せず、勝利のみを追求する</li> <li>高校野球の“宗教性”を帯びた徹底的な指導(挨拶、丸坊主など)が、現在の高校野球を支えている</li> </ul>
			4	父母の過大な期待	
			3	勝利第一主義	
			2	管理・エゴ的な指導	
		ソフトとハードの環境	7	現行ルールへの不満(規則、用具)	<ul style="list-style-type: none"> <li>用具などの規制の厳しさ</li> <li>過密日程や、秋から春にかけての対外試合禁止</li> <li>高校野球の経費は、学校の予算では不足</li> <li>公立高校のほとんどは専用グラウンドがなく、他のクラブと併用</li> <li>選手集めや長時間練習を許されない学校では、与えられた条件の中で最大限努力したとしても、その努力が報われない</li> </ul>
			2	“(日程、試合制限)”	
			3	過大な経費	
			2	施設不足の解消	
			2	勉強との両立の困難さ	
《高校野球の価値》	提言	指導者と組織	8	指導者交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロや社会人からの指導、高校野球の指導者仲間による指導者研修会の発足</li> <li>教員をやりながらの野球部の監督は、他の教員と比べるとかなりの激務</li> <li>高校野球に一度携わった指導者が、そのまま長年続けるケースが多い</li> <li>スポーツクラブ単位の活動にし、学校部活動とは離れた活動にする</li> </ul>
			5	指導者の重労働の解消	
			2	指導者の固定化の解消	
			1	地域クラブの組織	
		指導法の提言	3	自主性の重視(生徒主導)	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校野球全体が高校生のものであるから、彼らの利益になるようにすべき</li> <li>高校生レベルでは、ある程度管理されなければ物事の善悪の判断に乏しい</li> </ul>
			3	指導者主導(放任主義の否定)	
《高校野球の価値》	指導理念	教育的価値の強調	8	野球を通しての人間形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>野球を通じての人間的な成長を目指す</li> <li>現在の高校野球のルールが非行の歯止めになっている</li> <li>必勝主義から得るもの、その中から利点を求める</li> <li>高校野球で野球が嫌いにならないように、楽しみながら生涯体育としての野球の技術を教える</li> </ul>
			3	現行ルールの承認(歯止め)	
			3	勝つことの教育的価値	
			1	生涯体育としての野球	

表2 高校野球指導者の認識する問題と価値の項目別一覧表(競技成績別)

				競 技 成 績 別			
					上位グループ	中位グループ	下位グループ
					n=77	n=121	n=39
《高校野球の問題》	問題点	高校野球をめぐる 過剰反応	厳しすぎる出場停止処分	13	○○○○○○○	○○○○○	○○○
			マスコミの過剰報道	11	○○	○○○○○○○○	○○
			野球の特別扱い	6	○○○○○	○	○
		周囲の過熱と 指導方針	行き過ぎた選手集め	8	○○○○○○○	○○	○
			父母の過大な期待	4	○○○○○		
			勝利第一主義	3	○○	○	
			管理・エゴ的な指導	2	○		○
		ソフトと ハードの環境	現行ルールへの不満(規則, 用具)	7	○○○	○○○○○	
			〃 (試合制限, 日程)	2		○○	
	過大な経費		3	○○	○		
	施設不足の解消	2		○○			
		勉強との両立の困難さ	2		○○		
提言		指導者と組織	指導者交流のなさ	8	○○	○○○○○○○	
	指導者の重労働		5	○	○○○	○	
	指導者の固定化		2		○○		
地域クラブの組織	1			○			
言	指導法上の提言	自主性の重視(生徒主導)	3	○	○○		
		指導者主導(放任主義の否定)	3	○○		○	
《高校野球の価値》	指導理念	教育的価値の強調	野球を通しての人間形成	8	○○○○○○○	○○	
			現行ルールの承認(歯止め)	3	○	○○	
			勝つことの教育的価値	3	○	○○	
			生涯体育としての野球	1		○	
				100	43	47	10

性や、他の部活動との扱いの差が指摘されている。高校野球が特別視されると生徒を取り巻く環境が高校教育の場としてマイナスに働くために、人間形成の重要性を強く主張する上位チームに意見が集中したと思われる。

以上のように、『高校野球をめぐる過剰反応』に関しては、上位チームからやや多く出されているが、他の項目と比べると、総体的にまんべんなく出された。つまりこの問題は、頻繁に高

校野球の代表的な問題として取り上げられているために、それが指導者の意見の多さと関係していると考えることができる。

## ② 周囲の過熱と指導方針

チーム勝利のために手段を選ばずスカウトし、選手集めを行うことに関しては、特に上位チームから多く意見が出された。それによると、「選手の意向を無視した進路決定」、遠方からの越境入学が問題視されている。またこうした問

題に対処するために、選手の入学する学校を学区制にする案や、他校の戦力を落とすために必要以上の選手を獲得することがあるとされる。このことは、上位チームとの戦力の差の拡大に反対するよりも、他校に比べて思うように選手獲得ができない上位チーム同士の、選手争奪の激しさを表していると思われる。

甲子園出場や進学・就職の保証の期待をかけ過ぎる父母については、専ら上位チームから意見が出された。すなわち、「周りの大人が勝つことを要求しすぎる」、「野球をすることで進路保証されることへの期待を持っている」、「甲子園に出場させたい一心で親が県外に進学させる」という問題点の指摘である。こうした意見は野球成績の低いチームからは出されず、おそらく強豪チームにありがちな父兄会や後援活動が意見に見られるような行動・言動の助長を促していると思われ、上位チームの指導者の苦悩の深さがよく伺われる内容のものであった。

他の側面には配慮せず、勝利のみを追求する『勝利第一主義』に関しては、上位チームから若干の意見が出された。それによると、勝つことより良い選手を育てることが教育であることや、勝ちにこだわる高校野球は高校教育ではないとされる。ここでは、上位に位置するチームの指導者のみが勝利優先を否定しているわけであり、それは言い換えれば、そうしたことを彼らが常に意識していることの表れであると言うことができよう。

### ③ ソフトとハードの環境

規制が厳しいといった『現行ルールへの不満』については、下位チーム以外から意見が出された。甲子園の日程の過密さ、ユニフォームや道具の規制が厳しすぎることで、全国大会の開催方法についての不備を指摘するのがその内容であった。下位チームから意見が出されなかったといっても現状に満足しているわけではなく、チーム力がそうしたことに問題意識を持つまでに至っていないのであろう。逆に、上・中位チームは、力を注いでいるからこそ出される問題点のようにも感じられ、特に中位チームから多く出されたのは、おそらくこういった問題をクリ

アすれば、上位に食い込めるであろうという考えからのことと思われる。

部活動と勉強との両立の難しさを主張する『勉強との両立の困難さ』については、中位チームのみから出された。それによると、文武両道を実現できる人は少ないことや、選手集めや長時間の練習を許されない学校では、努力をその条件下で最大限したとしても報われないことがあるとされる。おそらく上位を狙おうと頑張っている公立高校または進学校の中位チームから出された意見と考えられ、「上位のチームには文武両道を行おうとする考えが少ないのではないだろうか」ということを指摘していると思われる。

### b. 提言

#### ① 指導者と組織

『指導者交流の推進』について指摘があったのは、特に中位のチーム指導者からであった。つまり彼らは、指導者の研修会の開催、プロ野球選手・社会人野球選手の知識を得る場、小・中・高と一貫した野球指導の場、相互のレベルアップを考えた交流、他校の生徒の悪い点を指摘しあえるような体制づくりを願っている。すなわち一部のチームだけがレベルを上げるのではなく、県全体のレベルアップを目指すという考えと、上位に食い込むためによりレベルの高いところから情報を得たいとする中位チームの考えがよく理解される。

他の教員と比べるとかなりの激務という『指導者の重労働の解消』についての意見は、特に中位チームの指導者から出された。つまり彼らは、ほとんど休日がない日々の校務との兼ね合いによる激務、野球の負担による他方面の仕事との兼ね合いの困難さ、他の教員との待遇の違い、私学や強豪チームの指導者がうける優遇について批判の目で見ている。すなわち「校務を完璧な形でこなした上で、高校野球の面倒を見ている指導者が上位のチームに少ないのではないか」という中位のチームからの疑問と思われる。

一度関わった人が長年続けるケースが多い

『指導者の固定化の解消』については、専ら中位チームから意見が出された。すなわち、積極的な野球部顧問への志願の減少、一度足を踏み込んだ者が長年続けるケースが多いという問題点の指摘である。また、『地域クラブの組織』に関しては、顧問教諭の負担の問題から、スポーツクラブ単位の活動にし、各学校の判断で、学校の部活動とは離れた活動にすることの意見が出された。つまり彼らは、「希望したわけでもないのに顧問に指名された」、「教員の負担を考えてサッカーのようにクラブ化を考えるべきだ」という意見を見てもわかるように、教員の負担軽減とクラブ化への移行という考えをもっていると思われる。

以上のように『指導者と組織』に関しては、中位チームの指導者から積極的に意見が出された。ここでは、チーム強化に積極的で“高校野球”というものに前向きな姿勢の指導者もいれば、部活動にあまり時間を割くことができずかなり苦痛に思う指導者が存在し、ほぼ同じレベルでありながら両極の考えを持っていることが明らかになった。

## ② 指導法上の提言

生徒が中心となって部活動を運営するという自主性の尊重に関しては、中位チームから若干の意見が出された。そこでは、「高校野球全体が高校生のものであるから、彼らの利益になるように考えるべきである」、「根本的に間違っていること以外は、生徒の自主性にまかせるべきである」、「ゲームは、生徒たちで運営すべきであり、監督・指導者は、スタンドで観戦すべき」といった指摘がなされている。つまり中位チームの指導者は、「中位チームには学業の上位や公立高校が多く、生徒中心に行っても大して支障はない」として生徒中心主義的な考え方を主張し、「トップレベルのチームの中の大多数が指導者の意向に沿った野球を行っており、指導者の能力や入れ込みの違いによって競技成績に差が出る」といった上位チームの運営方法に対し、批判の目を持っているものと思われる。

指導者が生徒を管理し、部活動を運営していく指導形態に関しては、上位と下位のチームか

ら若干の意見が出された。ここでの内容は、口頭での指導には限界があること、高校生レベルでは、ある程度の管理的指導が要求され、またともすれば生徒主導では部活運営がうまくいかず、現在は監督主導でいく他ないといったものである。おそらく上位チームには、ある程度管理した状況でなければ強いチームは作れないという考え方があり、下位チームには、ある程度の歯止めがないと生徒の動向が掴めないとする考え方があるものと思われる。

以上のように、『指導法上の提言』に関しては、生徒の自主性を重視するという意見が中位チームから多く出され、どちらかといえば指導者が中心となって指導するという意見は、上位のチームから出されるという、ある程度予測していた結果となった。この項目では、競技レベルによつての指導の方向性の違いが明らかにされたと言うことができよう。

## 2) 高校野球の価値

### c. 指導理念

#### ① 教育的価値の強調

『野球を通しての人間形成』という価値を主張する意見は、下位チームから全く出されず、上・中位チームから、それを特に上位チームから出された。それによると、いろいろな目的を持って野球をすることが一番大切であり、野球を通じて人間的に成長してくれば目的は達成されること、勝てばそれでいいという高校球児は育てたくないこと、人間の教育という観点を外しては高校野球はできないとされる。おそらく上位のチームとして、こういったことを唱えなければ、生徒を統括できないということがあると同時に、周囲に対しての意識が強いものと思われる。

現在の高校野球のルールの肯定的な部分を主張し承認することについては、上・中位のチームから若干の意見が出され、下位のチームから全く出されなかった。そこでは、高校野球のルールがある程度非行の歯止めになっていること、高校野球は注目されているので、厳しく対処すべきであることが指摘されている。すなわち

中位チームは、先の『現行ルールの不満』と同じような結果を示していることから、現行ルールに関しての問題指摘や提言に対して積極的であることがわかる。

勝つことによって教育的価値を見出すということについては、上・中位のチームから若干の意見が出され、当初予想していた上位チームによる意見の独占とは違った結果となった。その内容をみると、必勝主義の中にも利点が求められること、勝ちに執着してこそ自分たちの能力を開発せんとする意欲がわいてくることといった意見が出された。ここでは、上位チームが「勝つことによって教育的価値はあると思うが、まわりにこの問題に否定的な人が多い」というように、周囲の非難から防御するために意見を控えているようにも感じられ、それが上位チームの意見の独占に至らなかった要因の一つではないだろうか。

以上のように、『教育的価値の強調』に関しては、表2を見ても分かるように、下位チームからは全く出されなかった。特に『野球を通しての人間形成』に関して、上位グループからの意見が圧倒的に多かったのは、おそらくこういったことを意識させながらやっていかなければ、生徒や周囲に対しての統括ができないのであろうということが推察される。

#### 4. 結 論

本研究では、高校野球の価値と問題性の認識の違いについて探っていこうとしたが、価値を見出す意見が、問題性の意見よりも数的に下回った。

まず高校野球の問題点について述べれば、『マスコミと周囲の過剰反応』に関しては下位チームからも積極的に意見が出され、この問題については、チーム成績の上下に関わらず意見が出された。ただ、上位チームからは、『周囲の過熱』を憂える意見が多かった。これは、上位に位置しているからこそ持つ問題意識のように考えられる。中位チームからは、特に『ソフトとハードの環境』、『指導者と組織』についての意見が

出された。これは、こういった問題をクリアすれば技術的に上位に食い込めるという考え方が意見となって表れているものといえる。

つぎに高校野球の価値についてみれば、これについては、下位チームからは全く意見が出されなかった。『野球を通しての人間形成』だけは、上位チームに意見が多く見られたが、その他は、上・中位のチームに関係なく意見が出された。すなわち、野球のレベルに関係なく、指導者達が高校野球に価値を見出していることが明らかになった。全体的に見ると、中位のチームからは、全てにわたる問題に対しての改善策や指摘や提言など積極的な意見が多く出され、逆に上位チームからは自分たちの立場を擁護するような意見が見られた。そして下位チームのように、『高校野球をめぐる過剰反応』を除けば、ほとんど意見が出されず、チーム力が高校野球の問題や価値に対してそれほど深刻な意識を持つまでには至っていないものとも考えられる。

今回は自由回答を中心に分析を進めたため、調査対象の半分以上の意見を得たに過ぎず、対象者全員の考えを代弁した結果になったかどうかは疑問である。そのため今後の課題としては、今回の結果が、全国の高校野球指導者の意見として普遍化しているかどうかの確認を、より多くの資料・情報を基に探っていきたいと考えている。

#### 参 考 文 献

- 1) 財団法人日本学生野球協会「学生野球要覧」pp. 5-14 1990
- 2) 中村靖「高校野球指導者の理念に関する研究（Ⅰ・Ⅱ）——東京都高野連競技レベル別比較——」関西外国語大学研究論叢 54, pp. 441-455 1991
- 3) 野田洋平、小林悟樹他「高校野球に関する意識・イメージについて」茨城大学教育学部紀要（教育科学）40, 1991
- 4) 作田啓一「高校野球の社会学」思想の科学 30, pp. 8-13 1964
- 5) 「別冊宝島『高校野球の真実』98」JICC

- 出版局, 1989
- 6) 池井優「野球と日本人」丸善ライブラリー, pp. 9-16 1991
  - 7) 小椋博「甲子園と『日本人』の再生産」天理大学学報, 1993
  - 8) 裁弘義「野球を通しての人間教育——高校野球の現場から——」中京大学論叢 33, 2, 1992
  - 9) 飛田穂洲「学生野球とは何か」恒文社, pp. 18-32 1974
  - 10) 佐藤道輔「甲子園の心を求めて」報知新聞社, 1980
  - 11) 同上「続甲子園の心を求めて」報知新聞社, 1980
  - 12) 同上「新甲子園の心を求めて」報知新聞社, 1992
  - 13) 神田順治「野球にはあらゆることがあてはまる」ベースボールマガジン社, pp. 195-214 1977
  - 14) 好村三郎「汗と涙の高校野球」山手書房, 1967
  - 15) 立花孝一郎「黒い甲子園—汚れた高校野球を斬る」茜出版, 1983
  - 16) 中条一雄「高校野球を問い直す」学校体育 32, pp. 58-61 1979
  - 17) 沢田和明「高校野球の構造と現代社会における機能に関する基礎的研究——教育と宗教との観点から——」滋賀大学教育学部紀要 39, pp. 191-200 1989
  - 18) 作田啓一「高校野球と精神主義『恥の文化再考』」筑摩書房, 1970
  - 19) 浜田昭八「過熱する高校野球——甲子園大会とクラブ活動の理念のズレ違い——」李 教育法 75, 1985
  - 20) 桑野豊「クラブ活動と人間形成—その現状と課題」体育科教育 15 巻 1, pp. 38-40 1967
  - 21) 伊東明「わが国における学校クラブ活動の歴史」体育科教育 13-11, p. 12, 1965
  - 22) 浅田隆夫「日本の精神的風土とスポーツの特性」新体育 46-1, pp. 20-23 1976
  - 23) 岸野雄三「日本のスポーツと日本人のスポーツ観」体育の科学 18-1, pp. 20-23, 1976
  - 24) Coakley, J. J. (1982) : Sport in Society. : The C. V. Mosby Company, 39
  - 25) Digel, H. (1988) : The Prospects of Modern Competitive Sport. : International Review of Sociology of Sport, No. 3, 179
  - 26) Sage, G. H. (1973) : The Coach as Management : Organizational Leadership in American Sport. Quest, 36.
  - 27) Sage, G. H. & Eitzen, D. S. (1980) : Sociology of American sport. Wm. C. Brown, 67